

令和3年度 第1回
 函館市縄文遺跡群保存活用協議会会議録（要旨）

開催日時	令和3年11月4日（木）14時00分～16時00分
開催場所	函館市南茅部総合センター 講堂
議 題	(1) 協議事項 ① 協議会の設置および委員の委嘱について ② 正副会長の選任について (2) 報告事項 ① 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録について ② 縄文遺跡群の保存活用に関する取り組みについて (3) その他
出席委員	竹内 正幸 委員 黒川 宣之 委員 田名部忠勝 委員 大宮トシ子 委員 三浦 孝史 委員 松浦 宏 委員 山口 哲也 委員 藤井 浩之 委員 熊谷 儀一 委員 加藤 詔三 委員 <p style="text-align: right;">(計10名)</p>
事務局	函館市教育委員会 生涯学習部長 川村 真一 文化財課長 長谷山裕一 文化財課主査 田中 光也 文化財課主任 大矢 京右 南茅部支所 南茅部支所長 池田 敏春 地域振興課長 村田 剛 産業建設課長 西村 雅人 <p style="text-align: right;">(計 7名)</p>

1 開 会

開会 (事務局)	開会
-------------	----

2 挨 拶

開催挨拶 (生涯学習部長)	開催挨拶
------------------	------

3 出席者紹介

出席者紹介 (事務局)	協議会委員および事務局紹介
----------------	---------------

4 議 事

(1) 協議事項

① 協議会の設置および委員の委嘱について

協議会の設置 および委員の委嘱 (事務局)	(資料1)「函館市縄文遺跡群保存活用協議会設置要綱」 「 同 委員名簿」説明
-----------------------------	---

② 正副会長の選任について

正副会長の選任 (事務局) (委員一同) (事務局) (委員一同) (熊谷委員) (事務局) (熊谷会長) (黒川委員) (事務局)	会長の選任方法について協議 事務局案の提示を求める 熊谷儀一委員を提案 (南茅部町内会連絡協議会会長、前函館市縄文遺跡群保存活用協議会 会長) 異議なし 熊谷儀一委員を会長に選出 了承 副会長の選任について、会長からの指名を求める 副会長に黒川委員(一般財団法人道南歴史文化振興財団事務局長)を 指名 了承 正副会長席への移動を依頼
正副会長挨拶 (熊谷会長) (黒川副会長)	会長就任挨拶 副会長就任挨拶
議長交代 (事務局)	今後の議事進行を会長に依頼

(2) 報告事項

① 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録について

北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録について (議長) (事務局)	事務局に説明を指示 (資料2)『北海道・北東北の縄文遺跡群』世界遺産登録までの経過 説明 ※ 資料およびスクリーン投影により説明
---	---

② 縄文遺跡群の保存活用に関する取り組みについて

縄文遺跡群の保存活用に関する取り組みについて (議長) (事務局)	事務局に説明を指示 (資料3)「縄文遺跡群の保存活用に関する取り組みについて」説明 ※ 資料およびスクリーン投影により説明
(議長) (黒川副会長)	<p>今年は、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響が、世界中で交流人口に大きく影響した。</p> <p>縄文文化交流センターの黒川館長に、実際の現場の状況などについてお聞きしたい。</p> <p>5月の連休明けから7月下旬にかけては解除期間もあったが、9月30日までは断続的にまん延防止・重点措置期間となり、6月の修学旅行、旅行会社のツアー予約が7月以降に延期となった。また、この期間にはイコモスの勧告、世界遺産登録、垣ノ島遺跡のオープンと多くのメディアに取り上げられた。上半期全体はコロナの影響もあったが、旅行の目的地として、「世界遺産を見てみたい、国宝を見てみたい」と、縄文センター、垣ノ島遺跡、大船遺跡を選択される方が増えたようだ。</p> <p>縄文センターの動向をみると、4～6月は低調、7月は世界遺産効果もあり、1万2千人の入館があった。個人客が多く、札幌方面の方が大半であった。8月は、大雨による通行止めもあったが300～400人の利用があった。9月は緊急事態宣言があり、予約のキャンセルもあったが、10月以降は団体客などで例年に比べ大幅増となっている。</p> <p>大船遺跡も、6月以降は例年の倍以上の入場があった。8月31日にクマの目撃があり9月は閉鎖したが、8月と10月はそれぞれ5千人の入場があった。通年では例年の2倍になっている。</p> <p>垣ノ島遺跡も、8月～10月に6千人ずつの来場予想をしている。垣ノ島遺跡は45分、大船遺跡は25分で行う「解説ガイド」が高い評価を頂いている。垣ノ島遺跡では発掘体験もあり、こちらも好評である。</p> <p>見学予約は、一括して縄文センターで行っている。見学箇所が2カ所から3カ所に増えたが、団体客の滞在時間は変わらず、1カ所または2カ所に滞在を絞るケースが多いようだ。ツアー客は事前予約するが、実際に送客があるかは直前にならないとわからないのが実態。コロナの影響もあり、複数団体が重ならないようにするため予約調整に影響があった。駐車場の滞在時間も長く、混雑期には満車になりやすい状況もあった。</p> <p>まだまだ課題があるので、皆様のアドバイスを頂き進めて参りたい。</p>

(議長)	<p>貴重な報告ありがとうございます。</p> <p>世界遺産になってから月5千人程度の来客があり、今後もそれ以上が予想されるという報告でした。来年はより多くの来客がある事を願います。受入体制の細かい部分も検討頂きたい。</p>
(議長)	<p>事務局からの報告についてもご意見をいただきたい。</p> <p>なければ私の方から。</p>
(事務局)	<p>垣ノ島・大船遺跡の案内看板，出来れば，鹿部から南茅部，榎法華から南茅部，川汲トンネル抜けてから，市街地に入ってから，世界遺産登録の周知，中空土偶のモニュメントなどの看板設置は出来ないか。</p> <p>私どもも今回整備した標識だけで充分だとは思っていない。</p> <p>例えば，青い道路交通標識に矢印を入れる様な看板になれば良いとも思っている。世界遺産は，洞爺湖町，伊達市などを含め道内広域に渡るため，道庁が中心となり調整して交通標識にも掲示するよう話しを進めている。情報が入り次第報告する。</p>
(加藤委員)	<p>垣ノ島遺跡の盛り土遺構を，ガイドをつけて見学した。施設内の評価が高いとあったが，私には「何もない」という印象。発掘当時，盛り土遺構はものすごい数の遺物が出たものだが，その迫力が伝わってこない。箱から出すA3ラミネートの説明資料は小さすぎる。大きな看板は建てられないか。</p>
(事務局)	<p>オープンして半年経過し，改善が必要な部分もある。案内板設置については，文化庁から杭などを打つことが難しいとの指導もある。コンピュータ使用など「見せる技術」を検討したい。</p>
(加藤委員)	<p>文化庁は看板を立てるのはだめというのか。</p>
(事務局)	<p>遺構に支障となる工作物などは設けないようにと指導がある。いずれも文化庁の許可が必要である。</p>
(加藤委員)	<p>一人でじっくり説明を見て回りたい人もいる。資料なども箱に入れずオープンに見られるようにしないと。大船は復元住居がある。垣ノ島は何もないとの声もある。見て価値がわかる工夫も必要だ。</p>
(川村部長)	<p>教育委員会でも同じように思っている。一人で歩いても縄文文化に触れ理解することが出来る，デジタル技術を活用する検討をしている。</p>
(加藤委員)	<p>海を眺める場所にも，昔の漁や住居跡などを知らせる看板が欲しい。このままでは，何もないと評判になることが心配だ。発掘体験も迫力が伝わらない印象。センターの前にブランコや滑り台を置いて，子どもたちを集めるなど検討できないか。</p>
(議長)	<p>大きい看板には制約もある。皆さんに喜ばれる見やすい看板を立てることや，道路の看板については日本語だけではなく外国語の併記も検討を。</p>
(田名部委員)	<p>道を聞かれるが，特に縄文センター閉館日の月曜日に迷っている。遺跡を見学しても，センターの国宝とセットで見なければ魅力も半減する。月曜休館にしない方が良いのでは。スタッフからも情報収集した方が良い。</p>
(事務局)	<p>7月～9月の混雑期には，休館日も4日臨時開館した。来年も対応について協議したい。</p>

(議長)	専門のガイドさんは知識もあるプロだが、ボランティアガイド養成についてどう考えているか。
(事務局)	垣ノ島遺跡, 大船遺跡, 縄文センターは専門のスタッフが行っている。ボランティアではないので質は確保されている。一方, 北海道, 渡島振興局でボランティアガイドの養成講座も開催され, 協力している。養成後の活用方法について協議していく。
(議長)	英語でのガイド研修も必要だが, 大半が日本人なので関連した団体にボランティアガイド養成を依頼してはどうか。
(議長)	藤井委員, 南茅部高校での縄文クラブのガイドについてはどうか。
(藤井委員)	前校長からの引き継ぎにはなかったが, 英語のガイド養成等が新聞報道されていたようだ。ボランティアガイド養成の掲示もしており, 縄文クラブもあるが, コロナの影響で講座に出せなくなった。遺愛高校の生徒も豪華客船で英語案内していたが, 一昨年からは出来なくなっている。地元の高校なのでやりたいが, 部活も止めている状態で動いていない状況。ワクチンの確認も不可。地元の高校生がガイドするのは大変良いことですので, 今後の状況を見て考えたい。
(議長)	態勢がとれるようになったら検討して頂きたい。人材を育てるのは簡単ではないですが, 世界遺産登録前に解決しなければならない課題だった。コンベンション協会にもお力をお借りしたいがどうか。
(三浦委員)	世界遺産であるため, 説明にはスキルが必要。専門の方が行うべき。ただ, ボランティアのガイドは案内だけでないので, 解説と野焼き体験や発掘体験などと色分けしてやっていけばいい。 また, 最近は有償ガイドに移行している。インバウンドは特に, お金を払ってでもスキルを求める傾向。商売になりうるガイド育成を考えていくべき。
(議長)	有償ガイドも考えていく必要がある。
(議長)	黒川館長, 現場としてガイドについて何かあるか。
(黒川副会長)	垣ノ島遺跡については, 目に見えるものがなく縄文を感じにくく, ガイドも苦労しているところ。解説を受けたお客様の評価は高いが, 解説なしで入場した方からはわかりづらいという感想が多い。スタッフも積極的に解説を促すが, 解説を受けない方にどう理解していただくか。ガイド時間45分は長いので, 30分に短縮してもわかるコースを設定するとか。盛り土の説明をしても復元したものがあれば違うと思う。広い敷地を45分歩くと, ガイドも1日2回が限界である。
(議長)	大宮委員, 現場でガイドを行ってきてどう感じているか。
(大宮委員)	垣ノ島遺跡は広いので, 歩行困難な方に定時解説を勧めても難しい。歩く距離が長いのはお客様に負担がある。大船遺跡は30分程度の案内だが, 時間が無く自分で見る方と時間が掛かっても案内を希望する方もいる。大船遺跡は住居が復元されているため分かりやすい。住居の中に入りたいという希望が多く, 可能な場合は対応している。それぞれ様々な都合もあり, 案内を促すのはなかなか難しい。
(議長)	住居の中に入ることが可能なら活用も必要。歩行困難な方には車椅子の用意もあるが, 現場まで行くのは困難か。すべての方にスタッフが対応しきれない部分もあるが, 喜んで頂ける施設にして欲しい。

(議長)	道南縄文文化推進協議会としては、遺跡群の活用法をどう考えていくべきか。
(竹内委員)	<p>ガイドについては、北海道と協議会の共催でタクシーの運転手、バスガイドさんの講習を3月と10月に実施した。ボランティアガイドとそれを必要としている人を繋ぐのが難しい。今までは伝えたいことを伝える一方通行のガイドが主流だったが、有償ガイドには聞きたいことを会話形式で伝えるガイドが求められる。それを必要な人と繋げる仕組みが課題である。</p>
(議長)	<p>道南縄文文化推進協議会では「旅する縄文ガイド」を発行し、施設や学校に寄贈した。縄文の歴史は狩猟採集して定住が始まったという事を、簡単な言葉で伝える事が必要と考える。</p> <p>「縄文」を優しく伝えることが大事。地域においても遺跡はあるが縄文とは何？という感覚がある。身近に感じる体験をPRしていくことが大事である。</p>
(議長) (松浦委員)	<p>学校としてはどう考えるか。</p> <p>6年の歴史の授業で縄文文化を学ぶ。低学年は生活科のまち体験で遺跡見学、他の学年は絵を描く授業等で遺跡に行くため他の学校より恵まれている。子どもたちにとって登録前は遊び場感覚だった。</p> <p>他の遺跡で小学生がガイドするニュースがあり、取り組みたいと考えたが小学生には難しい。センター見学やもの作りを体験して、それが家族に伝わり少しずつ地元の関心に浸透するのでは。</p>
(山口委員)	<p>10月26日に1年生が縄文体験学習として縄文センターを見学した。子どもたちが遺跡について知る事は重要。函館を離れたとき世界遺産のことを知らないということが無いよう、地元で根ざした教育を今後も授業として取り組んで行く。</p> <p>また、館内の体験が出来る事を知らない人もいる。様々な点において宣伝効果も必要。足が不自由、または天候が悪くても、時間を区切りVR体験出来る施設もある。工夫すれば満足出来る方法はある。</p>
(藤井委員)	<p>総合的な探求の時間「南茅部を学ぶ」で、地元の産物昆布、財産の遺跡、縄文センターでの体験など、地元の人材を活用して小・中・高と連続性を持って学びを進めている。</p>
(議長)	<p>遊びながら学ぶ、体験しながら学ぶ事が大事。学生には、出来れば地元に残って地域の発信をして欲しいと願っている。</p>
(加藤委員)	<p>先日、垣ノ島遺跡を町内会で見学したが、車椅子で案内いただいた。</p> <p>また、利活用のひとつとして、お菓子、グッズ等を開発しているが掌握しきれていないと思う。道の駅の役割としては販売を促進すべきと思うが、在庫管理など経営に関わることであり、また店舗も狭いなど問題もあるが、開発商品の周知等を図っていくべきである。もっと道の駅としての役割を発揮すべきでは。</p>

(3) その他

(大宮委員)	祝・世界遺産の旗を町内に増やしたい。材質も弱く強風が吹くと破れたり壊れたりする。もう少し丈夫な物にして欲しい。
(事務局)	推進本部から送付されているものだが、要望あれば交換する。次回はもっと丈夫な物を要望したい。
(事務局)	今年度、市教委および推進本部、北海道等が作成したノベルティグッズ、チラシ等について周知。(机上配付)
(事務局)	今後の協議会について、本年度はもう1回開催を予定しており、2月から3月頃で調整していく。

5 閉会

閉会 (事務局)	閉会
-------------	----